

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(れんげ)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成21年11月11日	評価結果市町村受理日	平成22年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102566&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街にあり、地域の方の中には、ボランティアとして関わって下さったり、幼・小・中学生ともふれあう機会を持ち、総合学習の場としての提供もしている。秋には、自治会の協力を得て、文化祭を開催し、地域の方々と交流の場となっている。 ・入居者の方の持てる力を発揮する場を設け、家事(調理・食器洗い・洗濯たみ・掃除機かけ等)を出来る方には、スタッフと共に行って頂いている。 ・母体法人の理学療法士による個別機能訓練をうけ、その指示のもと、スタッフと共に毎日実施し、身体機能低下防止に取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設6年目を迎えたこのホームは、日頃の努力によって地域に溶け込み、ホームの文化祭には多くの住民が参加し、賑わいの1日となる。幼稚園・小学校・中学校との交流も盛んで、高齢者と子供との異世代交流も自然に行われている。職員の支援によって状態が改善され、自宅に帰ることができた利用者もおり、日々のケアの質の高さが表れている。ホームで可能な限り支援を続けるが、医療行為が必要になった利用者には、他の施設へと移ってもらうよう家族にも説明をしている。ホームで暮らす限りあるほんのひと時、職員は利用者に思いを寄せながら、共に笑い、共に話し、少しでも今の状態を維持できるようにと支援を行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(れんげ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の理念のもとに、認知症になっても、その人らしく生活していけるよう事業所独自の理念をつくり、それに基づいた1年の目標を決めている。管理者と職員は個別の目標について話し合う機会をもち、理念が継続して実践していけるようにしている。	地域密着型としての文言はないが、法人の理念を基にホーム独自の「毎日笑顔にあふれ自分らしさを大切にする暮らしを提供します」の理念が作成され、日々のケアや取り組みの一つひとつにも理念に根ざした意識が表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動、自主防災訓練、敬老会等に参加して、地域の方々との交流する機会を多くもてるようにしている。1昨年より地域の方々との協力を得て、「文化祭」を開催し、多くの地域の方々に参加していただいている。	開設以来、自治会の掃除や敬老会へ参加し、小学校や中学校との交流も多く、地域のいきいきサロンへも利用者は参加している。ホームの文化祭には地域住民の協力を得て、バザーやコンサート、喫茶などが行われ、多くの住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々も高齢化されており、ボランティア等で交流のある方が家族のことで見学に来られたり、相談に来られたりしている。支援のあり方等説明している。年末に、地域の方々に向けて「認知症サポーター講座」の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、班長、民生委員長、日赤奉仕団、ご家族の代表等の参加で、2ヶ月に1回開催している。入居者の日常生活の様子や報告、避難訓練の実施や実地指導の内容、評価等を報告している。又、いただいたご意見を活かす取り組みもしている。	自治会長、民生委員、日赤奉仕団、家族代表など多くの参加者で行われ、併せてホーム主催の認知症サポーター講座を開催し、地域の認知症理解のための情報発信の場としても一役買っている。家族が参加しやすい土・日に行っているためか、行政の参加は得られにくい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導で受けた内容への取り組みの仕方や、日常的にわからないこと等がある時は、担当者に直接連絡をとっている。	法人内に地域包括支援センターもあることから、管理者は高齢者が生きがいを持ち続けて生活できる地域作りに取り組んでいる。	運営推進会議に行政にも参加を呼びかけ、現場で明らかになった課題や今後の問題も踏まえ、行政と連携してサービスの向上に繋がるような取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながる具体的な内容等を研修会を開催して学び、身体拘束をしない取り組みをしている。開設時より課題となっている玄関の施錠については、交通量の多い県道沿いであることから、入居者の生命を守る意味でも、ご家族には理解していただいている。	身体拘束の研修を随時行っており、職員はその弊害を認識している。	玄関の施錠に関しては家族の同意書も取っているが、全家族が認識しているのか、また、施錠によって家族の訪問が遠のいていないかなど、再度検討し、短時間でも開放できるような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、研修会を開催して学ぶ機会をもち、ホーム内では、絶対がないよう防止に努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活自立支援事業等については、担当部長により学ぶ機会をもった。実際に制度を利用されている方への具体的支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は契約書の説明を丁寧に行い、不安や疑問がないか聞くようにしている。又、退居にむけては、次の行き先の情報を提供して話し合いをもち、理解・納得を得るようにしている。改定についても個別に説明し、承諾書に印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望等は、日常的に担当者やリーダー、管理者が来訪時や電話等でも聞くようにし、その都度対応し、説明している。又、玄関先にはご意見箱を設けている。	家族の訪問時や遠方の家族には電話などで意見や希望を聞いている。玄関には意見箱が設置してあるが、あまり活用されていないのが実情である。	家族への個別アンケートなどを実施し、家族が心の底に秘めている本音の声や思いを吸い上げ、ホームの取り組みや思いを家族に理解してもらい、ホームと家族の距離がさらに近くなれるような工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議やリーダー会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。さらに、介護部運営会議(月1回)で、運営者、管理者が会議をもち、反映している。	担当者制だが、全職員が把握できるよう情報は共有されている。好きなこと嫌いなことなどを記録するトリガーシートを活用して利用者の声を拾い上げ、職員は日々の中で気付いたことを会議等で伝え、運営や介護計画に活かしている。常に工夫と試行を心がけ、前向きにケアを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の改正を実施し、長時間勤務を是正し、職員が安心して働けるようにした。又、年3回の評価を実施し、職員の努力や実績が報われ、やりがいのある職場になるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修も毎月のように実施されているので、勤務以外の職員は参加している。又、外部の研修等にも、希望者を含め、多く受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協議会等に参加したり、ケアプラン研修等の各種研修の機会を通じて、他の同業者との交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前面談では、ご本人様より、昔の職歴や趣味、生活環境等を出来る限り聞くようにしている。ご本人が困っていることやこんな生活がしたいとの思いを聞き、安心して暮らしていけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでのご家族の不安や、入所への罪悪感を取り除いていただけるよう、何度もお会いする機会を作ったり、生活背景や要望等を伺いながら、信頼関係を築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの中味をご存知なく見学に来られる方もあるので、何を求めておられるのか内容を良く聞き、当ホームで対応出来るかどうか説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者お一人お一人を人生の先輩として人生経験から得た知恵や知識を教えて頂いたり、料理や掃除等を一緒にする中で、共に生活する者同士としての関係をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	内科等の受診の付き添いや、気分転換の外出等も共にご家族にいただいている。日常生活や行事等は電話やおたよりにて伝えており、一緒にご本人を支えて行けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、友人、知人等の来訪は自由にしていただいている。外出や外泊、ご家族の宿泊も可能である。	退居した利用者の家族や利用者の知り合いが遊びに来たり、また、利用者の家族も居室で宿泊したりと、入居前の人間関係がそのまま持続できるような自由な雰囲気作りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での顔なじみの関係ができており、他の方がおられないと、不安になられる方もある。スタッフが中に入り、傾聴したりして、不安をなくすようにしている。孤立しやすい方にも、歌やゲーム等の声掛けで、互いに関わり合える機会を持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後は、関係性は保ちたいが、関わりはあまり持っていない。(当ユニットでは、サービス終了者はいない)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望等を日々の生活の中で把握するようにしている。ご家族とのサービス担当者会議で希望を聞いたり、傾聴ボランティア等の協力も得て、把握に努めている。ユニットのケアカンファレンス会議にて、本人本意のケアの検討をしている。	日々の生活の中で担当者や職員が拾い上げた利用者の要望や意向は、毎月の会議で共有され、本人主体の暮らし方を提供できるよう努力している。洗濯物干しや取り入れ、食事の下準備など利用者の得意なことを自然に行えるよう、職員は支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴やなじみの暮らし方等について、ご本人やご家族より聞いて、アセスメント票に記入している。又、その後も折りにふれて得た情報はその都度センター方式の用紙にて記入して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活のパターンに個人差があるが、起床・食事・入浴時は、その方にあったペースで生活していただいている。又、好きなこと、得意なことができるような環境づくりにも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回ご本人・家族・ケア担当者・介護支援専門員・リーダーとサービス担当者会議を開催し、担当医、看護師の意見も考慮しながら、その方の課題とそのためのケアのあり方を検討している。その内容を反映した、介護計画を作成している。	3ヶ月に1回の担当者会議は、本人と家族の予定に合わせ、本人を取り巻く多くの担当者との話し合いが行われている。日々の中で拾い上げた情報を介護計画に反映し、さらに自立に向けてのケアができるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、個別ケアの実施の評価も記入している。毎月1回のケアカンファレンス会議で職員間で情報を共有して、統一したケアができるように検討し、見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本年度より、母体法人の看護師との医療連携体制がとれるようになり、入居者の体調変化等も24時間スムーズに対応できるようになった。又、法人内の他事業所とも連携を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のなかの喫茶店に行ったり、クリーニングを出しに行ったりと、日常的に交流を築いている。地域の方がお茶会や三味線の会、日赤奉仕団等のボランティアとして関わって下さり、皆様が楽しみにしておられる。又、幼稚園、小・中学生との交流も盛んである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を尊重し、在宅時からのかかりつけ医への通院や往診をうけておられる。予防接種や健康診断については、ご家族の要望に添った方法で対応している。又、歯科往診も希望される方にはお願いしている。	本人と家族の意向を尊重し、馴染みのかかりつけ医に家族が同行し受診している。受診内容や薬の変更についてはホームが細かく聞きとり、家族とホームが連携して利用者の体調を把握できる体制を作っている。有料ではあるが、家族に代わってホームが受診に同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療法人より担当の看護師が医療連携体制のもと、入居者の健康管理を行っている。又、24時間体制もとり、体調不良や転倒等の事故にもスムーズに対応できる仕組みをとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入・退院時にも医療連携担当看護師を通じて、情報提供を行い、安心した治療や早期退院に向けての連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は当ホームでは行っていないことは契約時に説明している。重度化し、当ホームでの対応が難しい場合は、他施設や病院等への転院していただけるよう情報を提供して、家族が困らないよう相談・支援を行っている。	加齢や機能低下に伴い、重度化については避けて通れない課題と認識しているが、現段階では、医療依存度が高くなった人には他の施設へ転出してもらう方針である。入居時に家族に説明を行い、意向の聞き取りも行われている。	ホームとしての明確な判断基準はあるが、口頭での説明に留まっていることが多く、今後のトラブルを避けるため、全職員の意思を再度量り、判断基準等のマニュアル化や家族への事前確認書・合意書などの文書の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、常に見るようにしている。又、消防署の救急救命士による講習会や担当看護師による応急手当等の研修会を開催し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力を得て、日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。又、入居者一人一人の避難訓練方法を居室入り口に掲示し、避難所要時間も計測している。	夜間を想定した自主的な避難訓練も年に数回行われ、住民の協力も得て訓練を行っている。玄関には避難経路も掲示しており、職員への周知を図っている。	災害時の家族への連絡方法・避難場所の事前連絡・災害に対する職員の認識・初動体制職員の参集方法・家具の固定・居室内管理など、職員間で再度話し合い、災害に対する気づきの再確認を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を人生の先輩として尊敬の念をもち、言葉使い等に誠意をもって接している。又、ケース記録等の個人情報に関わることはイニシャルで表記している。	接遇研修を実施し、言葉使いや呼び方などを統一し、利用者を人生の先輩として尊厳を大事にしようとの思いが根付いている。ホーム便りの写真は家族の同意を取り、相互の信頼関係も損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望等を日頃の会話や訴えの中から、聞き取るようにしている。思い等を表せない方からは、日常生活の行動や表情から汲み取るようにしている。傾聴ボランティアの協力も得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな日課にそって、生活される方もおられるが、起床・食事・入浴等は個々のペースで生活される方もおられる。希望を確認の声かけをして実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみができるように、居室内を整理し、ご家族の協力を依頼している。重ね着をされる可能性のある方には、見守りしている。理・美容はご家族の協力をいただいている。又、カットボランティアの訪問のある時は、希望者には実施していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の献立は決められているが、部分的に好みの物に変えることもある。日曜日は利用者の好みを聞き、好みにそったメニューを提供している。野菜切りや盛りつけ等も一緒に行い、役割を持った生活ができるようにしている。	全職員も同じ食事を一緒に味わいながら介助している。食事前に唱歌を歌ったり、嚥下体操も行い、利用者の気分を変えている。週に1回は利用者の好きなメニューや食べたい物を作る日を作り、食材の買い出し、下準備や野菜の皮むきなども手伝ってもらい、得意な分野で力を発揮できるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方がおられるので、食事量・塩分・カロリー等に配慮している。水分量がなかなか摂れない方には、個人購入にて、好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいと食後の歯磨きを個別に声かけし、見守りをしている。義歯の方には、毎晩お預かりをし、洗浄剤にて清潔を保つようにしている。自力にて口腔ケアの出来ない方にたいしては、歯科往診にて口腔ケアを行っていただいている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗のある方には、排泄パターンを知り、声掛け誘導し、トイレでの排泄ができるように支援している。又、トイレの場所がわからない方にも理解できるよう「便所」と書いた表示を掲示している。	入居が長い利用者も入居時と変わらず排泄が自立しており、グループホームならではのきめ細かな日々の支援が表れている。排泄記録によりその人のパターンを把握した上でさりげなくトイレに誘導し、その人の尊厳を守る心使いが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムには個人差があるので、担当医の指示を仰ぎつつ、下剤・整腸剤等でコントロールしている方もある。又、毎朝、牛乳又はヨーグルトを提供し、バナナを食べていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴に心がけ、希望があれば毎日でも、又、夜間入浴もしていただけるようにしている。入浴拒否のある方には、ご家族の協力を依頼している。	週に2回以上の入浴を行っており、職員の配置を調整し、20時までの入浴も可能としている。入浴拒否の利用者にはいろいろな方法で対応し、その成功事例を全職員で共有している。家族に入浴の協力を依頼することもあり、家族が銭湯に連れていくこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床時間は、それぞれの生活習慣や状況に応じて、自由にしている。日中においても、休息したい時には、自由に自室で休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフはお一人おひとりの内服薬や塗布薬について目的や副作用の理解に努めており、服薬についても確認表を作成して、チェックしている。症状の変化も確認し、情報を共有して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみや、やりたいことを個別に提供できるようにしている。ぬり絵・カラオケ・散歩等による気分転換も希望に合わせて提供している。家事をされる方には、調理・洗濯干し・たたみをスタッフと共に行い、役割を持って生活していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の悪い日以外は、戸外に散歩等に出掛けるようにしている。美術館への外出希望のある方には、ご家族の協力を得て、外出されている。全身的な低下により、外出が思うように出来ない方もおられる。	歩く速さ等によってグループに分け、天候や体調に配慮しながら、ほぼ毎日、周辺を散歩することを日課としている。法人のバスでの花見、手作り弁当を持って近隣の公園への外出等ユニット毎に様々な取り組みを行っている。重度化した人も庭園で外気浴を行い、季節を感じられるよう配慮している。	

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしては、基本的には、ホームでご家族よりお預かりしている。喫茶店や買い物時に出掛ける時は、ご本人の財布に現金を入れ、そのお金で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が手紙のやりとりができる方はおられないが、ホームとして、毎月たよりを送付し、そこに担当者からのコメントを載せて、1ヶ月のご様子を伝えるようにしている。電話は希望があれば可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建築なので一体感があり、落ち着いた雰囲気がある。天窗より光も入り、冬期には床暖房により、いつも快適な空間での生活ができるようにしている。ベランダへはいつでも自由に入出りできるようになっている。	リビングは天井が高く、開放感があふれ、南からの自然光がさんさんと注ぎこんでいる。利用者は職員の温かい見守りの中、思い思いの場所で自由にくつろいだり居室で横になったりと、ホームでの生活を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは、TVを観たり、気のあった方々と自由に話をされ、談笑される姿もみられる。廊下には長椅子もあり、独りになることもできる。ゲームや歌をうたったりと、楽しめる機会をもてるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を一部の方は、持参されているが、ほとんどの方が新しい物を持ってきておられる。	居室の小さな窓は開放感があり、花や手芸品を飾ったりと、利用者の個性と思いが居室内にもあふれている。ベッドはホームの物であるが、家具やタンスは家族が持ち込み、自宅を離れて暮らす利用者の心を支えている。馴染んだ家具に囲まれて、利用者はゆったりと暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからない方には、大きな文字で「便所」と書いてわかるように工夫している。各居室には、表札をかけて、ご自分の居室であることを理解していただけるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(らいらっく)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成21年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(らいらっく)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の理念のもとに、認知症になっても、その人らしく生活していけるよう事業所独自の理念をつくり、それに基づいた1年の目標を決めている。管理者と職員は個別の目標について話し合う機会をもち、理念が継続して実践していけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動、自主防災訓練、敬老会等に参加して、地域の方々との交流する機会を多くもてるようにしている。1昨年より地域の方々との協力を得て、「文化祭」を開催し、多くの地域の方々に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々も高齢化されており、ボランティア等で交流のある方が家族のことで見学に来られたり、相談に来られたりしている。支援のあり方等説明している。年末に、地域の方々に向けて「認知症サポーター講座」の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、班長、民生委員長、日赤奉仕団、ご家族の代表等の参加で、2ヶ月に1回開催している。入居者の日常生活の様子や報告、避難訓練の実施や実地指導の内容、評価等を報告している。又、いただいたご意見を活かす取り組みもしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導で受けた内容への取り組みの仕方や、日常的にわからないこと等がある時は、担当者に直接連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながる具体的な内容等を研修会を開催して学び、身体拘束をしない取り組みをしている。開設時より課題となっている玄関の施錠については、交通量の多い県道沿いであることから、入居者の生命を守る意味でも、ご家族には理解していただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、研修会を開催して学ぶ機会をもち、ホーム内では、絶対のないよう防止に努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活自立支援事業等については、担当部長により学ぶ機会をもった。実際に制度を利用されている方への具体的支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は契約書の説明を丁寧に行い、不安や疑問がないか聞くようにしている。又、退居にむけては、次の行き先の情報を提供して話し合いをもち、理解・納得を得るようにしている。改定についても個別に説明し、承諾書に印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望等は、日常的に担当者やリーダー、管理者が来訪時や電話等でも聞くようにし、その都度対応し、説明している。又、玄関先にはご意見箱を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議やリーダー会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。さらに、介護部運営会議(月1回)で、運営者、管理者が会議をもち、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の改正を実施し、長時間勤務を是正し、職員が安心して働けるようにした。又、年3回の評価を実施し、職員の努力や実績が報われ、やりがいのある職場になるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修も毎月のように実施されているので、勤務以外の職員は参加している。又、外部の研修等にも、希望者を含め、多く受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協議会等に参加したり、ケアプラン研修等の各種研修の機会を通じて、他の同業者との交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査での本人からの聞き取りや、入所時に合わせて本人の希望を取り入れ、暫定プランをたてている。又、日々の暮らしの中での不安な表情があれば居室内で個人的相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時、契約時、入所後来訪時に家族の話を傾聴し、ホームでの様子をお知らせしたり、話しやすい環境づくりを心がけ、連携情報交換等で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をよく聞き、個別対応している。必要としている支援を見極め、専門医の紹介、法人内他施設サービスの利用など情報提供し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の長い人生経験から得た知恵を教えて頂いたり、豊富な人生経験の貴重な体験談を聞かせて頂いたりしている。又、家事と一緒にやったり、スタッフの失敗談で談笑したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設利用を決断された家族の心の内を、その身になって汲み取り、少しでも精神的苦痛が軽減される様、話を傾聴し、今後の利用者の事を共に考えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚、兄弟などホームに来訪頂いたり、自宅に外出、外泊等、自由に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性を掴み、それを生かしながら他者と協調していける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、断片的接触はある。継続的な関わりは持っていない。積極的なフォローは実施していないが、相談はいつでも受け入れ体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を尊重し、入浴・散歩・買い物・レクリエーション・行事等、その都度本人に希望を確認している。困難な場合は、表情から意志を汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴、生活環境を聞き取り、情報収集に努めている。又、日々の暮らしの中で、本人から今までの話を聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、全身状態等記録し、変化を見逃さないように努めている。1日の流れも個別に対応し、楽しみ、やりがいを考慮するようにしている。持てる能力の発揮の場を設け、変化、異変に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・理学療法士・主治医などと連携し、ケアプランを作成し、3ヶ月に1度の見直しをしている。又、入・退院時等、急激な身体状況変化時は、ケアプランの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌、排泄チェック表、申し送りノート、バイタルチェック表、食事摂取量、ケアプラン実行表など記入し、月に1回ケアカンファレンスにて、利用者支援について話し合い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来訪され宿泊を希望された場合、和室に布団一式用意し、お食事の提供も対応している。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアによるお茶会・詩吟・三味線などレクリエーションの提供、消防署による防災訓練、校区の小中学校からの生徒・児童訪問、日赤奉仕団による工作提供、清掃活動、町内の掃除活動に参加するなど相互に共同している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医との関係を大切に、入所後もホームへの往診をして頂いている。また緊急時や入院が必要な場合は、母体法人の病院との連携体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である病院との医療連携を図り、看護師が来訪し、利用者の健康管理をしたり、処置が必要な場合は処置したりしている。また24時間体制で指示を仰げるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した病院に介護サマリーを提供し、利用者の日頃の状態を報告したり、入院後、管理者やスタッフが訪問し、情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期ケアは行っていない事を家族・主治医に伝えてある。重度化した場合、他施設への紹介、申込みをして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人主体で開催される講習会があり、出席して勉強している。緊急時マニュアルを熟読している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っている防災訓練で、消防署の方から災害時の避難方法を学び、避難場所、避難経路確認をしている。地域での避難訓練、講習にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って接するよう心がけ、居室内へ入る時の声かけ、着替え、入浴時などカーテンやドアの開閉に気を配るようにしている。また、個人情報個人ファイルに入れ、スタッフルームに保管し、ドアに鍵をかけている。また、毎月のユニット会議で確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする時には、必ず本人の希望を聞いてから行っている。説明も個人に合わせた言葉でしている。話し合いながら自己決定してもらうよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、食事時間、入浴時間など決まりはなく、自分のペースで行っている。散歩・買い物・レクリエーション等も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院、美容院へは家族が同行している。同行できない利用者は訪問利用やボランティア利用を利用している。毎朝、ひげ剃り、整髪、身だしなみを整えるなどしている。服装も利用者を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る事や味付けの相談や味見など利用者をお願いしている。盛りつけや配膳の手伝いもしてもらい、食事は利用者と同じテーブルを囲み、食器洗いも共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は主食と副食に分けて摂取量をチェックしている。医師の指示のもと、主食を軽く盛っている方もおられる(体重増加、糖尿)。また、水分量は摂取したその都度分量をチェックし、足りない方には声かけし水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で歯磨きを行ってもらっている。夕食後は義歯を預かり、ポリドントでの洗浄も行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おひとりおひとりの排泄パターンに合わせ、トイレの声掛けを行っている。また、昼間は布パンツにし、必要に応じパットを使用している。ほとんどの方が、トイレでの排泄をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より水分補給をこまめに行い、水分摂取したらその都度、排泄チェック表に記入し、どれだけ摂れているか確認している。また、排便の有無により、主治医の指示のもと、下剤コントロールしている利用者もある。運動不足にならないよう毎日の散歩も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの意志を確認し、入浴してもらっている。少なくとも週2回～3回は入ってもらえるよう声掛けをし、体調などで入浴できない人はシャワー浴や清拭や足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をされている時や食後休息しておられる時はむやみに訪室や声かけは控えている。また、入眠時間や起床時間も強制はなく、早朝など洗濯機の音が聞こえないように台所の戸を閉めて洗濯をする様に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書を読んで、薬の目的、用法、用量を理解するように努めている。副作用については、グレープフルーツジュースや納豆を摂取しないようにしている利用者がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶道を続けたい利用者のため、週1度、ユニット内でのお茶会を開催し、他の利用者にも参加し、楽しんで頂けるように支援している。習字をしたい利用者のため、週1度、習字の日を決め、希望される方々に参加頂き、展示会等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園、薬局やスーパーへの買い物、神社へのお参り、ホーム周辺の散歩など出掛けている。また、出掛ける人が偏らないよう、外出された人はチェックしている。家族に協力を得て、時には、遠方への外出もして頂いている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品や食品を買いに行きたいという要望があれば、共に店まで行き、品物選びの相談にのり、金銭支払いの見守り、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいという要望があれば、葉書を共に買いに行き、書いてもらった手紙を共にポストへ出しに行く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、掃除機をかけ、拭き掃除を行い、1日の終わりに、床のモップがけをしている。居間には季節の花を利用者が生けられている。台所の天窗の光をブラインドで和らげている。日差しが強い日は、ブラインドを下げ、テレビはつけっぱなしにしないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は、座る場所が決められておらず、そのときに気の合った人と座って話ができるようになっている。廊下に長いすがあり、独りになる事もできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、長年使っていた机を持ってきて、手紙を書かれたり、趣味のパッチワークができるよう、小さいテーブルと椅子を用意されたり、お茶や生け花の道具を持って来て活用されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく位置がわかるように表示しており、自分の居室の入り口には表札が貼ってある。また、のれんがかかっていて、自分の居室などわかるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102566		
法人名	医療法人友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム(さるびあ)		
所在地	岐阜県岐阜市福光東3丁目10番8号		
自己評価作成日	平成21年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(さるびあ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の理念のもとに、認知症になっても、その人らしく生活していけるよう事業所独自の理念をつくり、それに基づいた1年の目標を決めている。管理者と職員は個別の目標について話し合う機会をもち、理念が継続して実践していけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動、自主防災訓練、敬老会等に参加して、地域の方々との交流する機会を多くもてるようにしている。1昨年より地域の方々との協力を得て、「文化祭」を開催し、多くの地域の方々に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々も高齢化されており、ボランティア等で交流のある方が家族のことで見学に来られたり、相談に来られたりしている。支援のあり方等説明している。年末に、地域の方々に向けて「認知症サポーター講座」の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、班長、民生委員長、日赤奉仕団、ご家族の代表等の参加で、2ヶ月に1回開催している。入居者の日常生活の様子や報告、避難訓練の実施や実地指導の内容、評価等を報告している。又、いただいたご意見を活かす取り組みもしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導で受けた内容への取り組みの仕方や、日常的にわからないこと等がある時は、担当者に直接連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながる具体的な内容等を研修会を開催して学び、身体拘束をしない取り組みをしている。開設時より課題となっている玄関の施錠については、交通量の多い県道沿いであることから、入居者の生命を守る意味でも、ご家族には理解していただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、研修会を開催して学ぶ機会をもち、ホーム内では、絶対のないよう防止に努めている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活自立支援事業等については、担当部長により学ぶ機会をもった。実際に制度を利用されている方への具体的支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は契約書の説明を丁寧に行い、不安や疑問がないか聞くようにしている。又、退居にむけては、次の行き先の情報を提供して話し合いをもち、理解・納得を得るようにしている。改定についても個別に説明し、承諾書に印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望等は、日常的に担当者やリーダー、管理者が来訪時や電話等でも聞くようにし、その都度対応し、説明している。又、玄関先にはご意見箱を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議やリーダー会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。さらに、介護部運営会議(月1回)で、運営者、管理者が会議をもち、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の改正を実施し、長時間勤務を是正し、職員が安心して働けるようにした。又、年3回の評価を実施し、職員の努力や実績が報われ、やりがいのある職場になるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修も毎月のように実施されているので、勤務以外の職員は参加している。又、外部の研修等にも、希望者を含め、多く受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協議会等に参加したり、ケアプラン研修等の各種研修の機会を通じて、他の同業者との交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談では、少しでも安心できるよう、ご本人様の生活歴など今までの事やどう過ごして頂いたのか等をお聞きし、その人に合った生活を送っていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に向けた中で、家族も安心して頂けるよう、何度もお会いする機会を作ったり、電話等も含め、気になる事をお聞きし、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学等でこられた際に何を求められておられるのか内容をよくお聞きして、グループホームでの対応が出来るのか等を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊厳を持って接している。言葉遣いや対応についても不快にならないよう、共に生活する者同士としての関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の体調に変化があったりした場合は、家族に受診をして頂いている。それ以外でも常時何かある時は、連絡を取り合い、一緒に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にその場所まで行ったりしている。難しい場合でも、電話でやりとりして、途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内で馴染みの関係ができていられる方もおられるが、中には、時々不安になる方もおられるので、その時はスタッフが間に入り、傾聴したり、ゲーム等を通して他者との仲間に入っていけるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後は必要に応じて電話をしたり、連絡を取り合うこともある。(経過フォローや相談、支援はあまりできていない)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりに対して、やりたい事、こうして欲しい等をお聞きし、家族とのサービス担当者会議でも聞くようにしている。ユニットでのケアカンファレンスで本人本意のケアの検討を実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴や馴染みの暮らし方等について、ご本人やご家族に聞き、アセスメントとして記入している。その後も知り得たことは、センター方式の用紙に記入して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活のパターンを把握し、その方にあつた過ごし方をして頂いている。また、それぞれに得意な事、やりたい事を積極的にやって頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回ケアプランについて見直しをし、話し合う場をサービス担当者会議として開催している。その中で出た意見を反映したその方にとって最良のケアが出来るよう、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入し、変わったことがあれば報告し合い、必要に応じてケア内容も変更し、すぐ対応していけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ連絡を取り合うだけでなく、母体法人の病院との医療連携がとれるようになり、他事業所との連携を含めてより安心でスムーズな対応をしている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とお茶会や演奏会などを通して関わりをもっている。普段も散歩したり、買い物や喫茶店、クリーニング等を利用している。幼・小・中学生との交流も定期的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりのかかりつけ医に、そのまま受診したり、往診をお願いしておられる方もある。変更等あれば、家族等に確認し対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療法人と担当の看護師が医療連携体制をとり、日常的に入居者の健康管理をしている。体調不良時も適切な対応がすぐにとれるよう、24時オンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の普段の様子は介護サマリーを提供して伝える様にしている。又、医療連携担当の看護師を通じて、情報提供も行い、安心して治療が受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には終末期の対応はしていない旨は説明を行っている。重度化し、当ホームで対応が難しくなった時は、他のサービスを紹介し、退居後の体制が決まるまで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、普段より確認するようにしている。救急救命士による講習会も開催し、応急手当等を学び、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行うとともに、運営推進会議等を通して、近所等にも必要に応じて協力して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、常に接する際には、言葉使いや対応等全てにおいて誠意を持って行っている。服薬やトイレ等介助の際もプライバシーに配慮し、同じ目線で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を日常の会話や行動の中から汲み取ったり、利用者様が生活の中心となれるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課を優先するのではなく、何かする際には、確認・同意をとり、その人にとって無理強いとにならないようにその方のペースに合った過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきたら、切って頂くよう家族に協力依頼をしている。日々の生活のなかでも、季節に合った衣服を着たり、化粧をしたりできるよう、その方に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日のメニューは、利用者様に聞いて好きな物を作っている。調理や味付けも手伝って頂いたり、教えてもらう事もあり、積極的に行っている。好みについての聞き取りも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量、水分量をチェックしている。少なくなっていたりすれば、タイミングをよくみてお好きな飲み物を提供して補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいと歯磨きは毎食前後、全員の方に声かけし、見守りしている。義歯の方には外して頂き、介助も含めてケアを行っている。夕食後は、義歯の方はお預かりし、洗浄剤にて洗浄を行っている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握し、その人に合った声かけやトイレ誘導を行い、尊厳を失う事なく自然な形でトイレでの排泄が行えるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との連携をとり、指示のある方に対しては、下剤等でのコントロールをしている方もある。また、普段の生活の中での排便によりバナナ等の食事や運動により少しでも予防となるように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回入浴の際には声掛けし、同意を得てから行っている。出来る限り少しでも入って頂けるように無理強いのない範囲で入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に入床時間を決めて入床して頂くのではなく、その人の生活習慣に合わせて休みたい時に休んで頂いている。日中も昼夜逆転にならない範囲で休みたい時は自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法等について全スタッフが理解した上で服用して頂くよう努めている。往診等でその人の状況を伝える中で連携をとり、最善となるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の今までやってこられた事、得意な事、やってみたい事をお聞きして、出来ることはその力を活かしていただける場面をつくり、提供している。散歩や喫茶へ出掛け、気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には、弁当を作って全員で外で食事したり、散歩に出掛けている。外食や墓参り等については、家族にもお願いし行って頂いている。		

岐阜県 福光グリーンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホーム預かりとなっているが、本人様が管理している方もおられる。その方については、本人より買い物等は支払われる。他の方についてもお渡しして、自分での支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、直接電話をかけていただいている。家族より定期的にかかってくる方もおられる。耳が聞こえにくい方も多く、ホームのおたより等で日常生活の様子を伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は広く、窓も大きいので閉鎖的なイメージはない。暑い寒いについては、窓や空調にて調整したり、明るさについてもブラインド等で調整し、不快にならないように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす方もおられるが、日中はフロアで過ごされ、TV見たり、なじみの方と話されたり、ゲーム等のレクを行ったりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に多くの方が今までに使っていた物を持ち込まれ、使用しておられる。衣服についても、本人の昔ながらの物であったり、好み物を使用されておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、洗面所など、日常の中で使用する所を中心に、大きな字で分かるように書いてある所もある。それでも困っておられる時は、さりげなく声かけしお伝えしている。		